

平成19年	2007/3/20	夜	2人は千葉県市川市の行徳駅前のバーで友人と一緒に飲食(リンゼイさん) 「最寄り駅の(千葉県市川市の東京メトロ)行徳駅の改札前広場で見かけました」
平成19年	2007/3/20	24:00:00	21日に日付が変わる頃:東京メトロ東西線の行徳駅から西船橋駅に向かう電車の 中
平成19年	2007/3/21		リンゼイさんの家に押しかける 大学で美術を学んでいる。自分はストーカーではない。英語を覚えてもらいたいただけ』と
平成19年	2007/3/21		午前1時リンゼイさんの家を出る 、時間は既に深夜で終電はない。市橋被告は西船橋駅に戻り、インターネットカフェで一泊した 『変わった人だね。気味が悪いね』
		1:12	リンゼイさんは、友人に事の次第を電話連絡
平成19年	2007/3/24	夜	この日を最後にリンゼイさんと友人との連絡が途切れる 市橋君とリンゼイさんのメールのやり取りは7回
		23:00	24日午後11時ごろ、達也に電話をしたら家にいました。 『泊まりに行きたい』と伝えたら、『今日はスポーツジムに行って疲れたから1人で寝たい』と言われました。 ただ『ご飯だけならいい』といわれたので、(市橋被告の住む)マンションまで迎えに行き、近くで焼き肉を食べました 《市橋被告は焼き肉が好物だったが、この日はあまり食が進まない様子だったという。 食事の後は近くの海岸までドライブをした後、市橋被告のマンション前で別れたという。》
平成19年	2007/3/25	4:00	市橋帰宅 家計簿をつけた後、就寝
		8:40	市橋達也起床
		9:00	行徳駅付近で英会話レッスン 私の趣味の話、お互いの好きな映画女優の話、(19)98年の(サッカー)フランスワールドカップの話、 (映画化された)ハリーポッターの話(英語)をしました 「しかし、この時持っていたカバンには、現金3万円が入っていた。 つまり、現金は所持していたのに、誘い込んだと認められるのです」 レッスン料を忘れた タクシーで(行徳駅前から市橋君のマンション前のガソリンスタンド)移動 タクシー料金を支払う。タクシー乗務員に(5、6分の)待機を断られる。
		9:54	マンションのエレベーターのカメラに二人がうつっている。 玄関 入ったあと、私は手を伸ばしてリンゼイさんの後ろから抱きつかました 抵抗するリンゼイさんを押さえつけました リンゼイさんは廊下にあおむけになり、私はその上にまたがるように乗りました リンゼイさんの手足を私が押さえつけるようなかたちです リンゼイさんの着ている服を破ったりしています 《上下の服を脱がせ、全裸にしたと説明する市橋被告 顔面を殴ったり、頸部(けいぶ)を圧迫したりしていません リンゼイさんは数分間、抵抗しました 「はい。私はリンゼイさんの口を手でふさぎました」 リンゼイさんの手首と足首に、結束バンドをはめました 検察官「女性は服を脱がされそうになったら、ものすごく抵抗すると思うのですが、どう抑えて脱がせたのですか」 被告「数分間、激しくもみ合いました。数分間もみ合いになり、彼女は...リンゼイさんは抵抗しなくなりました。疲れたのだと思います。 リンゼイさんが抵抗しなくなったので、服を脱がせようと思いました」 検察官「上下とも裸にしてから結束バンドを使ったのですか」 被告「そうです」 リンゼイさんを姦淫(かんいん)しようとしてしました リンゼイさんを乱暴しようと、避妊具の装着を試みたが、うまくいかなかったため、避妊具をそのままゴミ箱に捨てた 私はリンゼイさんを姦淫しました 「膣入り口の粘膜、右の小陰唇内側のつけ根に出血 《リンゼイさんの母、ジュリアさんは右手で両目を覆い、下を向いている。 さらに、リンゼイさんの両足を結束バンドで縛った状態で乱暴したときの姿勢についての質問に市橋被告が答え、 ジュリアさんら遺族の表情は陰しくなっていく》 「リンゼイさんに悪いことをしたと思いました」 「なんとかしてリンゼイさんに許してもらわないと、許してもらいたいと思いました」 「なんとか彼女に話しかけて、人間関係をつくったら、許してもらえないんじゃないかと思いました」 私は寝室に置いてあった、テンピュール(低反発)のマットレスを廊下を持ってきて、 廊下で横になっているリンゼイさんの下に敷きました リンゼイさんが失禁
		10:50	英会話学校でレッスンの予定(無断欠勤) リンゼイさんの体を洗うため、抱きかかえて浴室へ移動しようとする リンゼイさんは抵抗し「私を殺すつもりね」と言った リンゼイさんを抱きかかえたまま、和室に運びました

			私のグレーのパーカをリンゼイさんの上半身に着てもらうため。結束バンドを切りました
		11:00	灰色のパーカを着せたまま、リンゼイさんを浴槽に入れた 私が着ていた茶色のジャケットを彼女の上半身に掛けました マットレスは外のベランダに掛けました 一度外した結束バンドをもう一度、彼女の手首にはめました リンゼイさんの体に黒いパーカとバスタオルを持ってきて掛けました リンゼイさんを浴槽に入れたのは再度の失禁を恐れた為
		12:00	リンゼイさんはたばこが吸いたいと私に言いました」 「私はできないと言いました」 「私がリンゼイさんが逃げたいことは、私はもちろん分かっていました。 でも、リンゼイさんがいうことを私がすべてしていたら、リンゼイさんが逃げてしまうと思って、私はイライラしました」 「私はリンゼイさんの顔を殴っています」 「私はリンゼイさんの顔を2回殴っています」 「最初に左のこぶしで、次に右のこぶしで殴りました」 《「殴りました」ではなく、「殴っています」という表現を使う市橋被告。どこか客観的な印象を受ける》 「感情的に殴りつけて、穏便には済まなくなりました？」 「彼女、リンゼイさんに逃げられてはいけなかったと思います」 「私がリンゼイさんを姦淫(かんいん)した上に、殴ったからです」 「今はダメだけど、何とか許してもらいたいと、それだけ思っていました」 「リンゼイさんが大声を出さないよう、口や、口から頭のまわりにかけて粘着テープを貼っています」 「リンゼイさんからは『警察には言わない。言わないから私を帰して！』と言われました」 「私が顔を殴ったせいでリンゼイさんの目の下が黒くなっていました」 「いま帰したらリンゼイさんが警察に言わなくても、ルームメートや周囲の人たちが問題にする。『今は帰せない』と思いました」 被告「『警察には言わない。帰してくれ』と繰り返していました」 検察官「リンゼイさんは『知らない男に襲われたと言えればいい』と言っていましたか」 被告「はい。帰してほしい、と何度も言いました。『外国人登録証を持っている。信用できないなら、それを持っていても構わない』 『道を歩いていて、見知らぬ男に襲われたと言えればいい』と話していました」 「リンゼイさんは4・5畳の和室の左側の壁際に私が張っていた、 私が書いた『走っているチーター』の絵をみて、私に『この絵は間違っている。私は大学で生物学を学んでいたから分かるんだけど、このチーターのおなかは出すぎている』と言ってくれました」 「私はリンゼイさんに、キング牧師の演説の内容を尋ねました」 「『I HAVE A DREAM』。『私には夢がある』という題名のスピーチです」 「私がその演説の最初の部分をリンゼイさんに尋ねると、リンゼイさんは黒人は奴隷解放宣言のあと、黒人は自由を手にしたけれども、奴隷のときは生活や 仕事に保証があったけど、自由を手にしたことで、生活や仕事の保証がなくなった面があるということを教えてくださいました」 「私は、リンゼイさんにカトリックとプロテスタントの違いを尋ねました。それとリンゼイさんが日本に来るまでに、どんな国に行ったことがあるのかということも尋ねました」 「リンゼイさんから、甘いものがほしい。飲み物がほしいと言われました」 「私は台所に行ってミネラルウォーターと黒砂糖を取ってきて、リンゼイさんの口の中に入れました」 被告「リンゼイさんから『たばこを吸いたい』と言われる前、リンゼイさんから『甘い物がほしい』と言われ、台所にあった黒砂糖をリンゼイさんの口に入れました。『たばこを吸いたい』と言われた後、今度は『白砂糖がいい』と言われました。白砂糖はありませんでした」 「だんだんイライラしてきました。私が考えていたことは何とか...リンゼイさんに許してもらい、(リンゼイさんを)帰したかった。でもだんだんイライラして きました。イライラするとき、リンゼイさんに『私を帰して。帰さないと大変なことになる』と言われ、私はカッと became ました」
			「リンゼイさんは私に手首の結束バンドが痛いから外してほしいと言いました」 「また台所に行ってキッチンばさみを持ってきて、彼女の結束バンドを切りました」 「リンゼイさんは私に足首の結束バンドも痛いから外してほしいと言いました」 「私は『できない』と言いました」 「リンゼイさんは私にトイレに行きたいと言いました」 「リンゼイさんに浴槽から出て、廊下のトイレに行ってもらいました」 「リンゼイさんの家族構成についても話を聞きました」 「リンゼイさんは『私は子供をたくさん産みたい。私の人生は私のもの』と言いました」 「『(リンゼイさんの)ルームメートがパーティーに行っている。今なら大丈夫』と言いました」
		深夜	持病がある。薬を飲まないと
平成19年	2009/3/26	23:38 0:30	。ワードはいずれも英語で「WARFERRIN(ワルフエリン)」「遺伝病」「第5因子」「血液病」「糖尿病」 交際相手にメールを送る。『1週間会えない』 「××へ(法廷では実名) 達也です。電話くれた? これから1週間ぐらい部屋にこもって勉強します。 ××には悪いけど、1週間電話を取らない。でも信じてください。メールは構わないです。ではでは」

		市橋君は寝てしまう
2:00		市橋君目覚める
		バンドが締まっているか確認？
		リンゼイさんが市橋の顔を殴る
		「リンゼイさんはこぶしで私の左こめかみを殴りました。頭を壁にぶつけ、何が起きたか分かりませんでした」
		「リンゼイさんを探すと、浴槽が倒れていました」
		「大声を出して逃げていこうとしました」
		「下の住人に声が聞こえてしまうと思い、追いすがりました」
		「アイ・ガット・イット、アイ・ガット・イット、ハハハ」
		『アイ・ガット・イット(I got it)』
		「『分かった、分かった、ハハハ』だと思えます」
		市橋逃亡を阻止する為に、口をふさぐ
		3分以上、相当な力で圧迫し続けた
		首の軟骨の骨折
		「リンゼイさんは動かなくなりました。リンゼイさんが逃げるのを止めたと思いました」
		気絶
		死亡
		リンゼイさんは両目を開けていました。目の焦点は合っていませんでした」
		「リンゼイさんが動きません。口元に、少し開いている口元に顔を近づけました。リンゼイさんは息をしていますが、
3:00		《市橋被告はその後、人工呼吸、心臓マッサージを説明した》
		「リンゼイさんが動かないのを見て、心臓マッサージと人工呼吸を続けました。リンゼイさんの口元に顔を近づけたが、
		息をしていない。それで、私の身体の力が抜けました...申し訳ありません」
		「それでも被害者の意識は戻らなかった？」
		「リンゼイさんは動きませんでした。それを見たら、私は全身の力がなくなって、意識がなくなっていました」
14:00		意識が戻る
		「これが現実なのか、夢なのか分かっていなかった。分かっていませんでした」
		「リンゼイさんが亡くなった後、私は4畳半に倒れていたはずのリンゼイさんと、(取り外し可能で4畳半に置かれていた)浴槽を、
		一緒にか別々かは分かりませんが、浴室に運びました。私はそのことを覚えていないのですが、私がしたはずです。
		リンゼイさんのご遺体と浴槽を浴室に入れた後、私はリンゼイさんの髪を切っているはずです」
		《玄関の靴からリンゼイさんの血液が検出されたことについて、検察官が付着した理由を尋ねるが、市橋被告は「分かりません」と答える》
		「私はリンゼイさんを姦淫するとき、リンゼイさんのコートを手で破いています。ブラジャーについては手で切っていません。
		姦淫する前、裸にするときは普通にはずしています。ブラジャーが切れているのは、
		リンゼイさんが亡くなった後、私のはさみで切っているかもしれません」
		「カーディガンは、手ではこのように破れません。だからはさみで切ったのは覚えていませんが、
		リンゼイさんが亡くなった翌日(平成19年3月26日)にはさみで切ったと思います」
		《検察側はさらに、下着やタイツの尿の跡についても尋ねるが、市橋被告は「分からない」「覚えていない」と繰り返した》
		検察官「リンゼイさんの頭髪を切ったのはなぜですか」
		被告「髪を切った行為自体覚えていないのです。ただ、私とリンゼイさんしかいませんでした。髪を切ったのは私です」
18:00		マンションに園芸用の砂を運び入れる
		購入したものは、赤玉土14リットルが4袋、園芸土25リットルが2袋、シャベルが1個、発酵促進脱臭剤が2個、脱臭剤が2個、苗木が1本
		リンゼイさんが勤務していた語学学校関係者とともに警察に通報
		「リンゼイさんのご遺体が入ったバスタブをベランダに出し、土をかぶせたことは覚えています。なぜやったかは、私は分かっていませんでした」
21:30		「(スポーツクラブに出かけようとしたのは)普通の生活に戻りたかったのかもしれませんが。いまから考えると、このことぐらいしか答えられません」
		警察官がドアの前に
		被告「玄関から出ると警察の方がいました。警察官に囲まれ、『リンゼイさんのことを知っているか』と尋ねられると、私がリンゼイさんにしたことが頭に浮かんできました」
		「そのときリンゼイさんが言った『私の人生は私のもの』ということが分かりました。急に怖くなりました。私は卑怯(ひきょう)にも逃げ出しました。申し訳ありませんでした」
		付近の住民:ベランダに浴槽確認
		玄関に大きな女性用の黒い靴
		ゴミ箱に、銀色の接着テープと、結束バンド、明るい茶色の髪の毛が絡まっているのを発見
		検察官「リンゼイさんを保護しようと各部屋を確認したが、リンゼイさんはいなかった。浴室の浴槽が外れているのに気付き、
		確認していないベランダを回ったところ、浴槽が置いてあった。一緒にいた署員が浴槽に詰まっていた土を軽くなでると、

			白い肌色の皮膚がみえた。触っても反応がなく、土が盛り上がり下がりたりと呼吸をしている様子もなかったので、土に埋まっているのは人間の遺体だと分かった」
			「ゴミ箱の中には粘着テープ13片、結束バンド5本、コンドーム1個、コンドームの袋2個が入っていました
			「13片のテープは無造作に丸められていました。結束バンド5本のうち、切断された2本は切り口が一致しました。コンドーム1個は内側についていた精子のDNA型が市橋被告のものと同じでした。外側にはリンゼイさんの細胞がついていました」
			現場にあった別のゴミ袋について、内容物:パーカー、リンゼイさんの頭髪、リンゼイさんのコート、リンゼイさんのカーディガン、粘着テープ
			玄関たたきには黒い運動靴や黒いハイヒールがありました。運動靴のつま先には被害者のDNA型と一致する血液が付着しています
			入り口の柱には粘着テープが張られ、テープにリンゼイさんの焦げ茶色の毛髪や被告の左手の指紋が検出されたことが示された
			次は風呂場の様子を写した写真です。浴槽はありません。シャワーのフックには黒いセーターが掛けられ、毛髪10本が付着していました
			廊下から台所の敷居にかけて尿の痕跡(尿斑)が見つかった
			廊下の壁には、血液も付着しています。写真では赤い矢印で示しています
			「台所には被害者の水色手提げバッグがあり、携帯電話が入っていました。そのほか、着衣などもありました
			スカートやブラウス、ベルトや下着。モニターに映し出されたリンゼイさんの着衣を見た母親のジュリアさんは手で顔を覆った
			財布には、外国人登録証や西船橋-小岩間の定期券、1327円が小銭で入っていました
			4畳半の写真には英語の参考書などが映し出された。室内の床からは45センチ四方の尿斑が見つかったことも明らかにされた
			「6畳の和室にはふすまが立てかけてあります。このふすまは2カ所破れていました
			毛髪が1束あります。マットレスには表と裏に60センチ、45センチの尿斑がありました
			リンゼイさんのカーディガンは腕の部分縦に切られていた
			リンゼイさんのスカートに尿
			犯行に使用したものと同一結束バンドです。2種類あり、大きい方は長さ42センチ、幅5ミリで、小さい方は長さ30センチ、幅4・8ミリです
平成19年	2009/3/27		同居していた同僚が遺体確認
			平成20年2月29日から6月26日までの間、『イノウエコウスケ』と名乗り神戸市の建設会社で働いていましたが、その後、寮から姿を消しました。
			20年8月20日から10月10日までは大阪府茨木市内の建設会社で『イノウエコウスケ』の偽名を名乗り働いていました。
			その後、翌11日の午前中に荷物を残したまま寮から姿を消しました
			「20年10月23日と24日、名古屋市内で整形手術を受けました。
			平成21年11月10日に大阪市住之江区のフェリー乗り場待合室にいたところを、大阪府警住之江署員に発見され、署に任意同行されたあと、同日通常逮捕
平成19年	2009/3/31		駐日英国大使館で、検察官の聴取を受け、調書を作成
平成23	2011/7/4	13:20	初公判
平成23	2011/7/5	10:20	第二回公判
平成23	2011/7/7	10:00	第三回公判
平成23	2011/7/8	10:00	第四回公判
平成23	2011/7/11	10:00	第五回公判
平成23	2011/7/12	10:00	第六回公判(論告求刑)
平成23	2011/7/21	14:30	判決